

南アルプス市2層3層現状と活動について

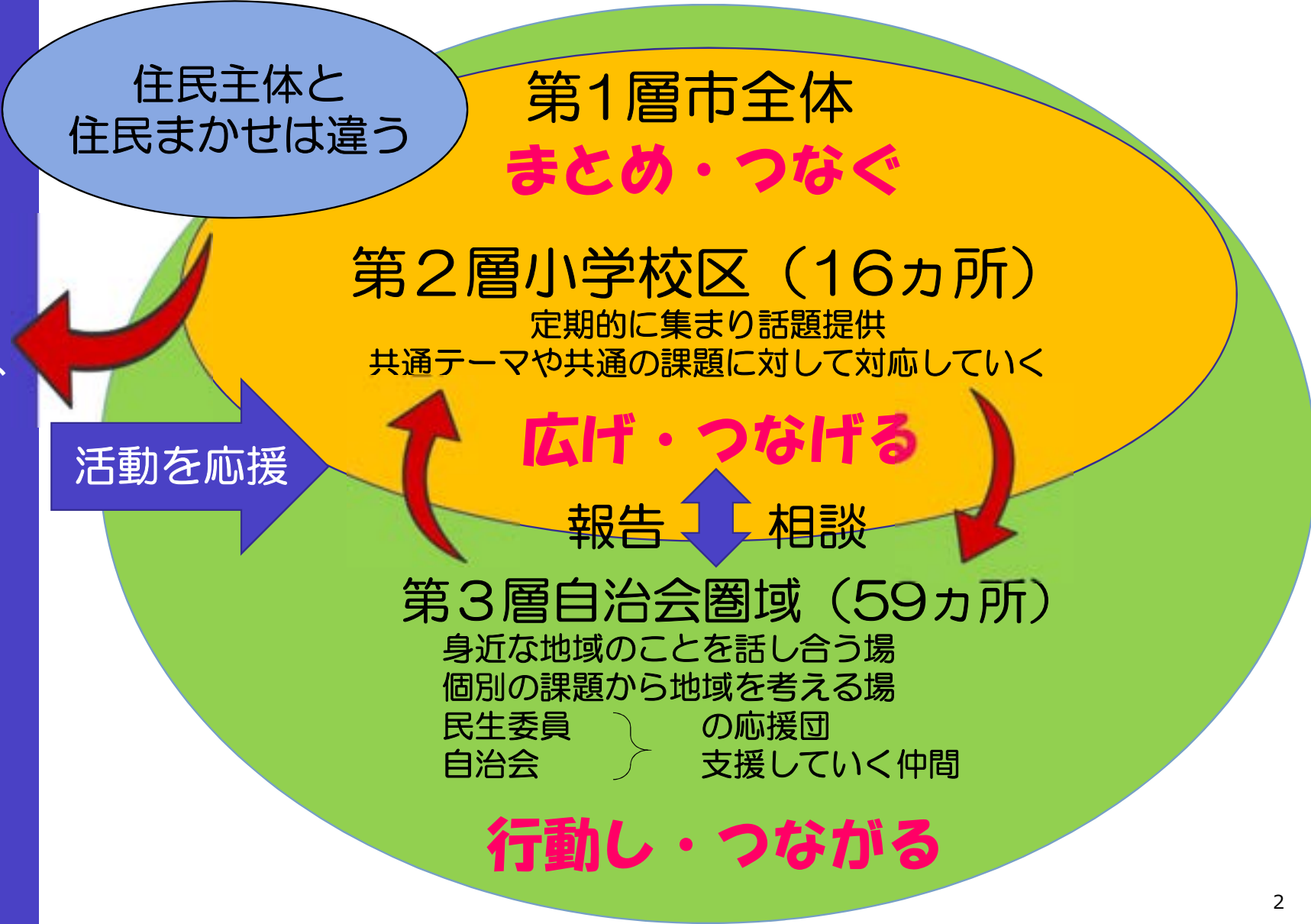


南アルプス市社会福祉協議会
2層生活支援コーディネーター 河野

協議体構成図
(2層、3層の役割)
R6.3.31現在

月1回の運営意見交換会
運営をサポートしていく
上での悩み協議体自体の
課題、成果や効果を出し、
解決策を考えると共に市
と社協の方向性の再確認
をするなど少しでも協議
体の後押しが出来るよう
に実施しています。

一番最初の会議の様子
(令和5年5月)



2層協議体定例会



- 定期的に定例会を開催
- 参加者は2名～30名地区で異なる
- 3層の情報共有
- 地域課題
- 勉強会・学習会

3層協議体定例会



- 身近な地域の事を話
- 個別の課題から地域を考える
- 必要なニーズに対応
- 実際に活動する
- 新たな資源を生み出す場

我がこととして考えるための勉強会の実施

ひきこもり



外出困難



ゴミ屋敷



孤独死



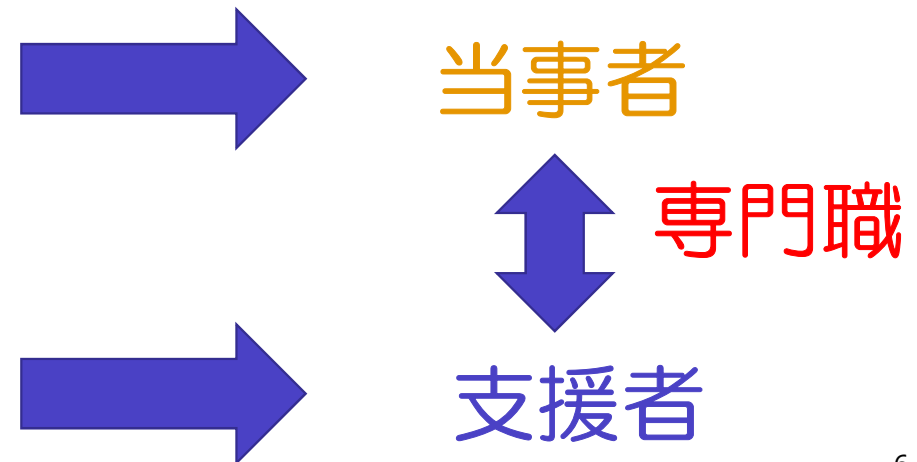
社協では、市内で実際に起きているふくしの問題を「他人事ではなくいつかは自分にも起こり得ること。」として市民の方と共に考えるふくし勉強会を開催してきました。これまでに地域の活動の場（サロンや老人クラブなど）や自治会、企業、協議体などでふくし勉強会を行い、延べ2,000名以上の方の参加がありました。

SOSのキャッチ～専門職との連携～

アンケート結果から地域の課題を把握し、いざ生活支援の仕組みを作っても困りごとがあがってこない現状がある。本当に地域の課題だったのか。

理由

- 1) 弱音を人には言いづらい（我慢強い）
- 2) お金がかかってしまう不安
- 3) お節介と思われたくない
- 4) どこまで関わればいいのか



専門職と協議体とのニーズを通したつながり



利用者・専門職

① インフォーマルサービスで地域にこんな支援があったらいいな。こんな地域だったら住みやすいのに。



⑤ 活動を通して困っている人を支援します。



2層・3層協議体話し合い

④ 協議体の話し合い時に代表より提案。地域のニーズを把握し、自分たちにできることを考えます



2層協議体代表者
または協議体メンバー



③ 担当から協議体の代表へつなぎます。
(面接もしくは代弁)

② 一度社協の協議体担当に相談してみてください。



社協職員
協議体担当者

支えあいディスカッション2023

～専門職と協議体との合同研修会～

日時：12月14日（木）15：00～17：00

内容：講演・事例発表・意見交換

講師：渡辺裕一氏（武蔵野大学 社会福祉学科 教授）

「地域に心配な人はいるのは知っているがどこまで関わればいいのか分からない」「地域ニーズが把握しづらい」と支援者側の声がある一方で、「誰に相談していいのか分からない」「お金がかかってしまうのではないかと不安だった」という依頼者側の声を多く聞く。また、個別ニーズが把握できず、話し合いに留まっているところや活動自体がマンネリ化しているところもある。

地域に目を向けて仕事をしている専門職と協議体とがつながり、個別ニーズから実際の活動が生まれ、生活支援の体制を整備できた協議体もある。今後は、専門職と協議体がより顔の見える関係になることで、個別支援や地域活動が生まれ地域共生社会の実現に近づける

- 【テーマ】
- ①介護保険サービス導入後、地域とのつながりが薄れた高齢者
 - ②80代要介護の母と50代障害者の息子
 - ②地域と疎遠の3人家族（祖母／要介護、母／外国籍、子）



毎年実施



例え話①



あるカップルが川の下流で釣りをしていると、川の上流からおぼれた人が流れてきた。苦しんでいる人を放っておけず、助け出して、手当てをして、救急車を呼んで病院に送り、家族にも連絡を取った。

例え話②



しかし、おぼれた人たちが、
どんどん上流から流れてく
る。カップルは疲れ果てて
しまう。

例え話③



カップルは何が原因でこんなにおぼれる人がいるのか上流を見に行くと...

例え話④



見晴らしのいい展望台で、
看板も柵もない滑りやすい
崖だった。だから人が落ちて
ておぼれたと気づく。

例え話⑤



カップルは、このコミュニティのリーダーを探し、事情を説明して、データや証拠を伝え、そして、注意を促す看板や柵を設置するようお願いする。下流には、見張りやライフガードを配置するようにお願いした。



柵をつくる
看板を設置
ライフガードを配置

公助
(1層)

市や自治会に伝える
散歩仲間に伝える

共助
(2層)

見守り
注意喚起
あいさつ・呼びかけ

自助
(3層)

地域課題を把握し、自分たちが現在していることで
できることや新たにできることを考える＝**協議体**

生活支援

居場所

介護
(認知症予防)

広報・周知



協議体の目指すところ（地域作り）

- ①住民主体の地域作り
- ②ご近所同士での支えあいを広める
- ③地域の中で支えあいの仕組みをつくる

2層3層で生まれた住民主体の活動

生活支援

買い物支援 外出支援
粗大ごみ撤去 ゴミ捨て
害獣対策用電柵管理
草刈り、木の伐採
制服リサイクル
小学校登校時見守り
主要道路のゴミ拾い

居場所作り

サロン開催 こども食堂
話し相手
映画会開催
地域行事への協力
マルシェ開催
花づくり、野菜作り
やきいも大会
移動販売手配
ラジオ体操居場所

介護予防

健康講座
軽スポーツ
百歳体操
ふくし勉強会

広報・周知

広報誌の作成
瓦版の発行
見守り運動チラシ
のぼり旗の作成

小さな見守り隊



- ・登校時、見守り
- ・お互い様
- ・子どもたちとちょっとした支えあい
- ・朝のあいさつ



つながりが広がる



- ・メンバーの声掛けで食事会に参加
- ・独居高齢者
- ・孤食、食が細くなり食べられなかった
- ・おしゃべりと笑いの大切さ
- ・参加出来ない友達の家に毎月訪問し
おしゃべりを楽しんでいる。

明日は我が身、おたがいさま



- ・定年退職後、県外から移住
- ・80代、高齢者夫婦
- ・子どもはなく親戚とは疎遠
- ・夫は足が悪く持病があり妻は認知症
- ・ケアマネが付き介護保険を利用
- ・夫が他界し、妻は施設入所
- ・自宅は空き家、草木が生い茂り苦情

自治会との連携・長期継続可能



- ・住民自身による新たな共助の仕組み
- ・自治会の正副会長と町内会長を
山寺せーたら推進会議の役員としておく。
- ・高齢者や障害者宅の整備
- ・困っているお宅の生活支援を実施。

「買い物×会話＝介護予防」



- ・独居高齢者
- ・地域にスーパーが無い
- ・自分の目で見て買い物がしたい
- ・地域包括支援センター
- ・民生委員の協力
- ・協議体
- ・居場所づくり

地域の活動部隊として



- 消防団OB・現役
- 耕作放棄地
- 次代の担い手

「課題×課題」＝「耕作放棄地×世代間交流」

- ・ 遊休耕作地、地域の畑を利用して土づくりから、チラシを作成して地域住民へ周知、地域住民と一緒に
- ・ さつま芋の苗植え/草刈り/収穫/焼き芋大会
- ・ 他地区との交流



制服リサイクル

新たに入学するときには、制服、体操服、上履き、ランドセル…。思っている以上にお金がかかります。そこで、家で眠っている着なくなった制服や学用品などを後輩に託してリサイクルし、助け合いの輪を広めたらどうか？

制服リサイクルの取り組みを通してSDGsに大きく貢献できる活動で市内各地で制服リサイクルの輪が広がっています。



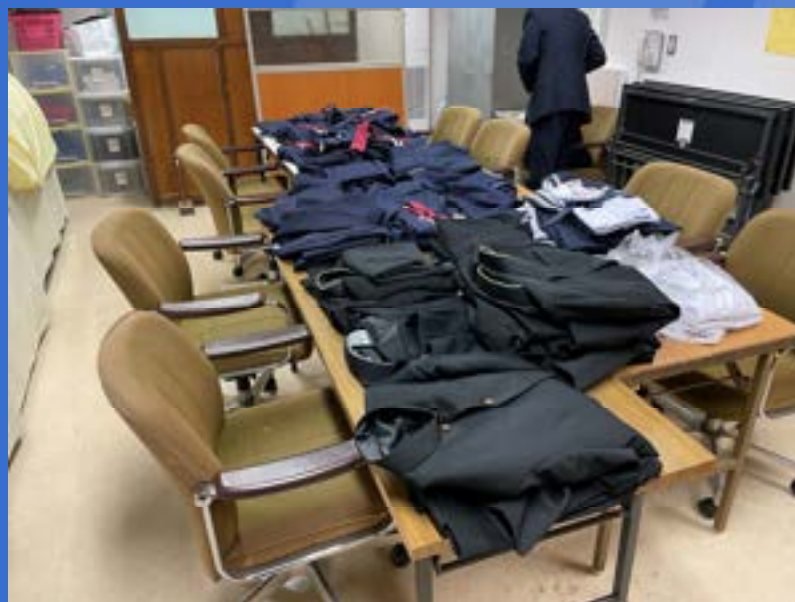
各地区の2層協議体が主体となり周知のチラシ作成から開催までを行っています。

若草地区 R3～

甲西地区 R4～

櫛形地区 R5～

八田地区 R6～



生活支援

居場所

介護
(認知症予防)

広報・周知



協議体の目指すところ（地域作り）

- ①住民主体の地域作り
- ②ご近所同士での支えあいを広める
- ③地域の中で支えあいの仕組みをつくる

協議体活動の流れ ①協議体に参加



⑤楽しいと思える



②地域や近所のニーズ把握



④役割や成果を感じられる



③助け合い・
支え合い活動



2層運営委員意見交換会

住民主体と住民まかせは違う



月1回の運営意見交換会を開催しサポートしていく上での悩み協議体自体の課題、成果や効果を出し、解決策を考えると共に市と社協の方向性の再確認をするなど少しでも協議体の後押しが出来るように実施しています。

協議体の声を聞き、それぞれの段階で
住民主体の活動ができるようにアプ
ローチ（しかけ）することが大事です。

協議体事業の段階

大人の福祉教育

無関心層への
アプローチ

2層設置時期

- ・福祉に興味がない
- ・協議体とは何か？
- ・やらされ感
- ・何をしたいのか

無関心期

代表、副代表決め。
根気よく話し合い。
地域課題、地域資
源の把握。

2層話し合い時期

- ・主体性がでてこない
- ・活動につながりづら
い（何をしたいか）
- ・モチベーション低下
- ・参加者減

専門職との研修

関心期

活動を通して
協議体を振り返る。

2層活動 3層設置時期

- ・2層ではエリアが広すぎる
- ・しっくりこない
（活動もイベント的で）
- ・地域性（地域によって考え
方や参加者数が違う）

個別相談のなげかけ

準備期

より身近な場での
課題、資源把握と
活動。

3層活動時期

- ・3層それぞれの活動
（格差生まれる）
- ・2層の役割が不明
- ・新規参加者がいない
- ・自分たちの活動に自信
がもてない
- ・課題の解決策が不明

福祉部局以外の
市職員との合同研修

実行期

それぞれの役割が明
確化。活動が継続。
支えあいの広がり。

2層・3層 活動時期

- ・協議体の将来が不安
- ・参加者の高齢化
- ・活動のマンネリ化

2層代表・副代表
意見交換会

協議体スキルアップ勉強会

維持期

上半期・下半期 第2層代表・副代表意見交換会

目 的：日ごろ感じていることや悩みを共有することで、今後の活動の参考にする。

2層で解決できない課題をまとめ、1層協議体へ提言する。

参加者：2層代表・副代表者

内 容：情報共有・グループワーク

テーマ：高齢者の移動 遊休農地の管理

令和4年度を振り返り～2層、3層の課題と成果の共有～

頻 度：年2回実施



事例発表 「移動手段と取り組み」

- ① 楡形西地区協議体 代表 小野忠 氏
- ② あさばら支えあい隊 隊長 浅原知義 氏



1層協議体より

「2層の課題を受けて、どのように取り組んだのか」

「来年度に向けて課題と成果を共有する」

- ・今年度どんな活動をしたのか
- ・やりたかったけどできなかったことは何か
- ・なぜできなかったのか
- ・来年やってみたいことはどんなことか



常に課題として

●運営についての悩み

- ・代表・副代表の交代のタイミングは？
- ・メンバーの高齢化、担い手がない
- ・話し合ってもその場だけ感がある
- ・運営側が同じ人だとマンネリ化する
- ・居場所作りをしているが同じ顔ぶれ
- ・参加者が日が経つ毎に減っていく
- ・2層として何をしたらいいか、何に取り組む
- ・毎年人が変わってしまいまた協議体とは？から始めなければならない
- ・3層の情報共有が出来ている、意見が活発
- ・代表・副代表間で話し合いが出来ている

●解決が難しい

- ・協議体の周知
- ・個人情報取り扱い
- ・移動支援
- ・耕作放棄地
- ・協議体不活性化
- ・メンバーの高齢化

●今後やりたいこと やってみたいこと

- ・他団体との連携
(NPO、各種団体)
- ・勉強会・地域を知る
身近な課題を話す
- ・地区・他地区との交流
- ・居場所作り
- ・生活支援(草刈り、片付け等)
- ・耕作放棄地を花畑にする
- ・軽スポーツの交流会
- ・子どもと交流する場を作る
- ・サテライト訓練、
災害マニュアルの作成
- ・「助けて」と言える地域作り

●その他

- ・社協の担当者がよく協力してくれる
- ・住民主体とはなにか？
- ・福祉バスがなくなり残念
- ・「楽しかった」「ありがとう」の声聞くと
これからも頑張れる

協議体活動スキルアップ勉強会

～福祉の分野を超えた地域づくりを考える～

日時 2月13日(火) 13:30～15:30

場所 若草生涯学習センター

趣旨

【南アルプス市本部725-1】

平成27年介護保険法改正に伴い始まった協議体。誰にとっても住みやすい地域を目指し、これまで、話し合いや活動を行ってきました。今では高齢者に向けた活動以外にも子どもの居場所、

ごみ出し、遊休農地、移動問題など福祉の分野を超えた活動も始まりつつあります。

そのため、今後も福祉分野以外の市職員と協議体参加者が連携し合うことが予想されます。協議体活動が

スムーズかつ活発になることを目的に、市職員と協議体参加者が一緒に勉強会を開催します。ぜひ、皆さまの参加をお願いします。

第1部 全体会

時間 13:35～14:00

テーマ 「地域共生社会の実現に向けて協議体の役割」

健康科学大学 健康科学部
福祉心理学科(人間コミュニケーション学科) 講師
講師 渡邊隆文 氏



●講師プロフィール●

【学歴】
2011 ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科社会学
福祉学専攻博士前期課程修了
【職歴】
2008 山梨県教育委員会城南教育事務所
2009 山梨県教育委員会富士・東部教育事務所
2012 東京都八王子市教育センター教育支援課
2014 健康科学大学健康科学部福祉心理学科助教
2019 健康科学大学健康科学部福祉心理学科講師
2022 健康科学大学健康科学部人間コミュニケーション学科講師

時間 14:00～14:10

「山梨県における協議体の状況」

説明者 山梨県 福祉保健部 健康長寿推進課

第2部 分科会

時間 14:15～15:20

第1分科会 「外出と移動手段」

事例発表者 あこはつさんのいえ
市担当部局 市役所市民活動支援課

第2分科会 「耕作放棄地への対応」

事例発表者 上宮地域支えあい協議体
市担当部局 市役所農業委員会事務局

第3分科会 「防災と減災の取り組み」

事例発表者 おちんていさん交流館
市担当部局 市役所防災危機管理課

※分科会では、外出支援、遊休農地、防災をテーマに各分科会30分ごと同時に開催します。3つの分科会の中から2つまで選択可。

申込方法：裏面申込用紙に記入し、FAX 283-4167もしくは電話283-4121にてお申し込みください

主催：南アルプス市社会福祉協議会
共催：南アルプス市役所介護福祉課

問合せ
南アルプス市社会福祉協議会 地域福祉課
第2層生活支援コーディネーター 小林
電話：055-283-4121 FAX:055-283-4167





地域性があるため活動も様々
(最近では、高齢者だけでなく子どものことも)
住民の『やりたい』をこれからも応援していきたい

できるひとが
できることを
できる時に

ご清聴ありがとうございました

